

日本体力医学会学会賞の受賞論文

学会賞（体力科学）：

酪酸摂取がラット骨格筋における糖輸送体GLUT-4タンパク質の発現量に及ぼす影響

野中 雄大¹，東田 一彦²，木村 典代³，寺田 新¹

¹東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻生命環境科学系，²滋賀県立大学人間文化学部生活栄養学科，
³高崎健康福祉大学健康福祉学部健康栄養学科

地域在住高齢者における縦断的調査への不参加および途中脱落に関連する
心身機能と背景因子の探索

長野 真弓¹，森山 善彦²，畑山 知子³，野藤 悠⁴，西内 久人⁵，熊谷 秋三⁶

¹京都文教大学臨床心理学部教育福祉心理学科，²森山スポーツ医科学研究所，
³南山大学人文学部心理人間学科，⁴公益財団法人地域医療振興協会，⁵福岡市健康づくりサポートセンター，
⁶九州大学基幹教育院，大学院人間環境学府

学会賞（JPFMS）：

**Sex-differences in age-related grip strength decline: A 10-year longitudinal study
of community-living middle-aged and older Japanese**

Rumi Kozakai¹, Fujiko Ando², Heung Youl Kim³, Atsumu Yuki⁴, Rei Otsuka⁵ and Hiroshi Shimokata⁶

¹School of Lifelong Sport, Hokusho University, ²Faculty of Health and Medical Sciences, Aichi Shukutoku University,
³Faculty of Policy Studies, Nanzan University, ⁴Faculty of Education, Kochi University,
⁵Section of NILS-LSA, National Center for Geriatrics and Gerontology,
⁶Graduate School of Nutritional Sciences, Nagoya University of Arts and Sciences

奨励賞：

4週間のn-3系多価不飽和脂肪酸摂取が運動時の脂質代謝に及ぼす影響

石橋 彩^{1,2}，佐々木 裕人¹，松宮 さおり¹，池戸 葵¹，海崎 彩³，
浜岡 隆文⁴，後藤 一成¹，海老 久美子¹

¹立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科，²国立スポーツ科学センター，
³立命館大学グローバル・イノベーション機構，⁴東京医科大学健康増進スポーツ医学分野

平成29年度学会賞選考を振り返って

学会賞選考委員長 浜岡 隆文

学会賞を受賞されました方々におかれましては、誠におめでとうございます。さて、例年、本学会の学会賞は、前年度に学会員が筆頭著者として執筆した原著「体力科学」および「The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine, JPFMS」のそれぞれから一編と、両誌をあわせた若手筆頭著者の論文の中から学会賞にふさわしい業績と認められるものを選定しております。その結果、今年の学会賞（体力科学）は一編に絞ることができず、同等に高評価を得た二編を選出し、学会賞（JPFMS）と奨励賞はそれぞれ一編を選出しました。

今般、体力科学分野においても、質の高い国際誌が数多く存在しますが、是非とも、「体力科学」、「JPFMS」への積極的な投稿をお願いいたします。その上で、学会員の皆様には、栄えある学会賞を受賞される夢を見ていただき、その夢を実現されることを祈念いたします。

一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2017年5月）議事録

日時：2017年5月19日（金）午後5時30分～7時00分

場所：八重洲倶楽部 第2・3会議室

議長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登、西平賀昭、永富良一、碓井外幸、大野 誠、小野寺昇、勝村俊仁、川原 貴、後藤勝正、坂本静男、下光輝一、須田和裕、竹森 重、武政 徹、成田和穂、浜岡隆文、山内秀樹（各理事）、井上 茂、小林康孝、定本朋子（各監事）、山次俊介（第73回大会長代理・福井）、前田清司（第74回大会長代理・茨城）

欠席者：坂本静男、内藤久士、甲斐裕子、栗原 敏、田中喜代次、田畑 泉、西牟田守、能勢 博、宮地元彦（各理事）、清田 寛（監事）、三浦祐正（第72回大会長・愛媛）

【審議事項】

1. 前回議事録の承認（鈴木理事長）

前回の理事会議事録を理事会開催中に内容確認を行い、訂正等がある場合には申し出て頂くこととし、理事会終了後に承認することにした。

2. 平成29年度決算見込みについて（勝村財務委員長）

資料に基づき、平成29年度決算見込みについて報告があり、正式な決算は8月の理事会で報告予定である、と説明された。

3. 平成30年度予算案について（勝村財務委員長）

資料に基づき、平成30年度予算案について報告があった。赤字体質の財政が改善出来ていないため、7月中に関係役員で費用削減について検討し、次回8月理事会にて再検討した予算案を提案する旨、説明され、継続審議となった。

4. 平成30年度事業計画について（武政総務委員長）

資料に基づき、平成30年度事業計画案について報告があった。審議の結果、承認され、9月の社員総会に諮ることとした。

5. 学会賞について（浜岡学会賞選考委員長）

資料に基づき、審査結果が報告された。5月8日に開催された委員会において、学会賞（体力科学）は同等の高評価を得た2件、学会賞（JPFMSM）1件および奨励賞1件を選考したことが報告され、承認された。

【学会賞（体力科学）】

◎「酪酸摂取がラット骨格筋における糖輸送体 GLUT-4 タンパク質の発現量に及ぼす影響」（65巻1号）

野中雄大、東田一彦、木村典代、寺田 新

◎「地域在住高齢者における縦断的調査への不参加および途中脱落に関連する心身機能と背景因子の探索」（65巻3号）

長野真弓、森山善彦、畑山知子、野藤 悠、西内久人、熊谷秋三

【学会賞（JPFMSM）】

◎「Sex-differences in age-related grip strength decline: A 10-year longitudinal study of community-living middle-aged and older Japanese」（5巻1号）
Rumi Kozakai, Fujiko Ando, Heung Youl Kim, Atsumu Yuki, Rei Otsuka and Hiroshi Shimokata

【奨励賞】

◎「4週間のn-3系多価不飽和脂肪酸摂取が運動時の脂質代謝に及ぼす影響」（体力科学65巻2号）

石橋 彩、佐々木裕人、松宮さおり、池戸 葵、海崎 彩、浜岡隆文、後藤一成、海老久美子

6. ACSM運動処方指針第10版の翻訳について

（後藤編集副委員長）

編集委員会から、第10版の翻訳を見送った方がいいのではないかと、との意見が出された。その理由として、現在学術刊行物小委員会が発行を予定している出版物の内容と重なっており、翻訳を中止して学術刊行物小委員会が発行する出版物に変えていく方がいいのではないかとということが挙げられた。これに対して、鈴木理事長と碓井常務理事より、“ACSM運動処方指針”の翻訳は今まで続けてきた体力医学会の事業の1つであり、他の学協会等関係者からの評価も高く、第9版を刊行しなかったため、最新版の翻訳を望んでいる方々が多い点、および体力医学会の収入財源の一つとなっている点などが挙げられ、“第10版 ACSM運動処方指針”の翻訳事業は継続すべきである旨の意見が出された。その結果、学術刊行物小委員会が発行する出版物とは別に考え、“ACSM運動処方指針”の翻訳を行うことが承認された。

7. 学術刊行物執筆者の選定および進捗状況について

（永富学術刊行物小委員長）

資料に基づき、「メディカルフィットネス—臨床医向けのエクササイズガイド—（仮題）」のPART1の構成案とセクションエディターの先生方について報告された。2018年5月の脱稿を目標にPART1の作成を行っており、評判如何により、PART2の作成も視野に入れていることが報告された。

8. 編集委員会規程の改定について（後藤編集副委員長）

資料に基づき、編集委員会規定の改定について報告された。改訂された内容は以下の通りである。

第4条 原稿の投稿

(3) 『JPFMSM』に投稿された Regular Articles, Short Communications, Case Report, Study Protocol, Reviews, Short Reviews（依頼も含む）は、J-STAGE オンライン投稿審査システムを用いる。

(7) 原稿投稿から掲載に到るまでの過程

5) 担当編集委員は適切な査読者2名を選出・依頼し、原則2週間以内に査読結果報告を受ける。

下線：新たに追加した文言

9. その他（鈴木理事長）

- (1) 資料に基づき、第21回東海地方会の市民公開講座の内容について報告された。
- (2) 日本医学会平成29年度役員候補者（会長候補1名、副会長候補1名、理事候補1名、監事候補1名）について、投票を行った旨が報告された。
投票した役員は以下の通りである。
会長候補：楽木宏美先生（日本老年医学会）
副会長候補：渡邊裕司先生（日本臨床薬理学会）
理事候補：後藤正道先生（日本ハンセン病学会）
幹事候補：門脇孝先生（日本糖尿病学会）
- (3) 日本肥満学会から平成30年度診療報酬改定提案について依頼があり、持ち回り審議の結果「諾」と回答した旨が報告された。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

- 1) 総務委員会（武政委員長）
前回の理事会で改正した名誉会員推薦内規に基づいて、名誉会員の選出を行った事が報告された。
- 2) 編集委員会（後藤副委員長）
資料に基づき、以下の報告がなされた。
(1) 第8回日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）総会・第8回シンポジウムに参加した。
「一般社団法人学術著作権協会」における著作物複製利用に係る権利委託と複製利用許諾の契約について、会議に参加した学会に加入要請があったことが報告された。
(2) J-STAGEセミナー「オープンアクセスジャーナルに求められることとは」に参加した。
オープンアクセス化に向けた対応として、学会で以下の項目について対応が必要である事も加えられた。
・BOAI statementあるいはそれに準拠したオープンアクセスstatement
・査読プロセス
・編集委員会の名簿
・Licensingや著作権情報
また、Licensingや著作権情報に関しては、「再利用に関する権利」の表示になり、いわゆる「CCライセンス（creative commons licenses：基本6タイプ）」を採用し、最も寛容なCC BY（表示）から最も制限的なCC BY-NC-ND（表示、非営利、改変禁止）までの6種類から、本学会として選択表示する必要があり、編集委員会で検討していく。
(3) J-STAGE Editor向けワークショップ『ジャーナルの国際発信力強化に向けて～投稿数増加のための事例共有～』に参加した。
J-STAGEの概況説明に続いて、投稿数を増やすことに成功した3つの学会についての事例報告がなされ、本学会として参考になる事例を報告した。
・特定かつ注目に値する特集号を年頭に組む
・他誌への投稿時にJPFSMの論文引用をお願いする
・査読期間（著者への査読結果報告までの期間）を短縮し、Web上で査読状況を明示する

- ・査読・編集事業についての講習会を大会で開催する（大会に依頼する）
 - ・海外Editorを入れる、Language Editorを明示する（雑誌のステータスが上がる）
 - ・投稿料、掲載料については著者負担の軽減という立場を取る
- 以上挙げられた点を基盤として、学会誌査読の改善を推進していきたい旨、報告された。

3) 学術委員会

- (1) スポーツ医学研修会について
（山内スポーツ医学研修会実行委員長）
第28回日本体力医学会スポーツ医学研修会について、進捗状況が報告された。
- (2) プロジェクト研究について（須田委員長）
プロジェクト研究の進捗状況、採択された方への研究費の支給、および来年度で全てのプロジェクト研究費支給が終了することが報告された。
- 4) 渉外委員会（永富委員長）
資料に基づき、以下の報告がなされた。
(1) ECSS-JPFMSM交流シンポジウムについて、進捗状況が報告された。オランダからお越しいただく先生方について、オランダ大使館から援助が出ない事になったので、渉外委員会の予算の範囲内で賄う事に変更することになったことが報告された。
(2) 愛媛大会の国際セッションシンポジウムに於いて、渉外委員会がオランダとの共同セッションを担当する事が報告された。
- 5) 倫理委員会（成田委員長）
資料に基づき、『日本体力医学会倫理委員会規定 施行に関する細則』のホームページ用掲載案の説明がなされた。
倫理審査にあたり、倫理委員の先生方には、1件につき1万円の謝金を、司法書士や弁護士の資格等の法律の資格を有している先生には1件につき3万円の謝金を支払うことが承認された。
倫理審査体制は、倫理委員の方5名と非会員の方2名にて行う事を想定しており、倫理審査開始時期を7月～8月頃に向けて準備を進めている旨、報告された。

2. 理事選挙の結果及び役員選挙の進捗状況

（須田選挙管理委員長）

資料に基づき、理事選挙当選者が報告された。今後、スケジュールに基づき、理事長選挙、副理事長選挙、常務理事選挙を行うことが報告された。

3. 第72回（愛媛）大会の進捗状況

（尾形第72回大会長代理）

配布資料に基づき、大会の特別講演等準備状況について報告された。

会場：愛媛大学城北キャンパス、
松山大学文京キャンパス

会期：2017年9月16日（土）～18日（月）
テーマ：愛顔つなぐ体力医学

4. 第73回（福井）大会の進捗状況

（山次第73回大会長代理）

配布資料に基づき、大会会場の変更等準備状況について報告された。

会場：福井市フェニックスプラザ、

AOSSA 1, 5, 6, 8階, ハピリン3階

会期：2018年9月7日（金）～9日（日）

テーマ：しあわせ元気なふくいでつむぐ体力医学

～QOL維持・向上の運動効果～

5. 第74回（茨城）大会の進捗状況

（前田第74回大会長代理）

大会の準備状況等について報告された。

会場：つくば国際会議場

会期：2019年9月19日（木）～21日（土）

6. その他

浜岡学会賞選考委員長より、学会賞の中で査読者賞を新規に設定してはどうかとの提案がなされ、学会賞選考委員会の予算の範囲内で検討を行うこととなった。

一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2017年8月）議事録

日時：2017年8月25日（金）午後5時30分～7時45分

場所：AP品川 9階 N+Oルーム

議長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登、西平賀昭、永富良一、碓井外幸、勝村俊仁、甲斐裕子、栗原 敏、後藤勝正、坂本静男、須田和裕、竹森 重、武政 徹、田中喜代次、成田和穂、能勢 博、宮地元彦（各理事）、小林康孝、定本朋子（各監事）、尾形直則（第72回大会長代理・愛媛）、山次俊介（第73回大会長代理・福井）

欠席者：大野 誠、小野寺昇、川原 貴、下光輝一、田畑 泉、内藤久士、西牟田守、浜岡隆文、山内秀樹（各理事）、井上 茂、清田 寛（各監事）

【審議事項】

1. 前回議事録の承認（鈴木理事長）

前回の理事会議事録を理事会開催中に内容確認を行い、訂正等がある場合には申し出て頂くこととし、理事会終了後に承認することにした。

2. 平成29年度庶務報告に関する件について（武政総務委員長）

2017年7月31日現在、会員総数4,308名、新入会員343名、退会者397名（内自然退会227名）、購読団体数は149団体であることが報告された。また、2年以上会費未納者リストが提示され、2年以上会費未納者については第72回愛媛大会を期限として、自然退会とすることが承認された。尚、自然退会者の中に、今年度名誉会員に推薦された方が含まれている。第72回愛媛大会を期限とし、2年間の会費2万円を支払う様、武政総務委員長から勧告し、支払われたことの確認後9月16日の社員総会に於いて名誉会員に推薦することになった。

総務委員長より、2年以上（2万円）の会費未納者への会費納入督促の連絡について、従来3回目の年会費請求書発送の際に、督促状を添えていたが、今後は自然退会対象者に対して別途メール配信にすることが提案され、郵送で送った場合との費用を比較し、検討することとした。

3. 平成29年度会計報告（決算）に関する件について（勝村財務委員長）

資料に基づき、平成29年度決算（暫定版）について報告がなされた。

収入の部 予算に比べて会費収入が約179万円、大会開催収入が約151万円、称号費収入が約34万円、研修会収入が約49万円、広告収入が約8万円増収した結果、年度内収入は別途積立金取り崩し収入を含めて93,024,337円であった。

支出の部 予算に比べて大会開催費が約50万円と予算を上回るも、全体の支出としてはほぼ予算額通りで、年度内支出としては、83,252,061円であった。

本決算については公認会計士のチェックと監事の監査が行われる事が併せて報告された。

4. 平成29年度事業報告に関する件について（武政総務委員長）

資料に基づき、平成29年度事業報告について報告があった。審議の結果、承認され、9月の社員総会に諮ることになった。

5. 学会費値上げと非有職者大会参加補助制度の提案（後藤理事）

資料に基づき、学会年会費値上げと非有職者大会参加補助制度について以下のように提案された。

- ①学会年会費を1,000円値上げする
- ②学会費の値上げに合わせて、大学院生など非有職者を対象に大会参加補助制度などを実施する

審議の結果、理事長より、後述する「平成30年度予算見直しについて」の中で報告する事業見直し案により削減が見込めるので、上記①会費の値上げは行わない事が決定した。②については、今後適切な委員会を設立して議論していくこととした。

6. 体力医学会地方会5ヶ年間の参加者推移および補助金見直しについて（武政総務委員長）

武政総務委員長より、資料⑥を用い、1回当たりの地方会出席者数は7地方会間に大きな差異がないことが報告された。しかし、関東地方会の補助金額が最も

高い。これは、会員への連絡がハガキおよび封書に依存していた時代に決定された金額である。関東地方会は年3回行われ、会員数が最も多く、郵送料が多く掛かるので補助金額も多かった。しかし、現在はメールで一斉送信できるので全ての地方会一律年間200,000円でいいのではないかと、という提案がなされた。関東地方会代表幹事の竹森理事にも了承して頂いたので、7地方会一律200,000円で合計1,400,000円補助することに決定した。

7. 平成30年度予算見直しについて（鈴木理事長）

資料に基づき、平成30年度予算についての見直し案が出され、以下1)～5)の事業見直し案が理事会で承認された。

鈴木理事長より、2017年8月5日に“予算見直し委員会”を開催し、その際提案された“予算削減案”について、資料⑦を用いた報告後、審議され、下記全ての削減事項が承認された。

1) 会員名簿

会員名簿を2年毎、4年毎更新または廃止案の3案が提示され、審議の結果、4年毎に更新することに決定した。その結果、サーバー保守料420,000円/年+名簿作成費年間積立金約500,000円(=387,342円=名簿作成費1,549,368円/4年)=920,000円計上することになった。

2) 地方会費

7地方会一律200,000円(7×200,000=1,400,000円)にする案が提出され、決定した。

3) プロジェクト研究費

2019年度以降3,000,000円の削減となる。

4) 学会大会補助金

2020年(平成32年度鹿児島大会)より補助金額2,000,000円となり、1,000,000円の削減となる。

5) 学会誌発行費

編集委員会から提出された“編集経費の見込み”(平成29年7月26日後藤勝正編集副委員長提出)に基づいて説明された。平成29年度(2017年度)予算案では27,000,000円計上されていたが、雑誌の紙質を下げるなどによって決算見込み額が22,683,000円に削減され、4,317,000円(=27,000,000-22,683,000)削減となった。さらに、編集委員会からの提案による掲載料の変更およびカラーページの値上げ等が、2017年の社員総会において承認され、総会以後に投稿された論文に適用した場合の費用を鶴岡印刷所に試算して貰った。その結果、平成30年度学会誌発行予算は20,500,000円と見積もられた。この金額を平成30年度学会誌発行予算額に変更する案が提案され、理事会において承認された。

以上の結果から、上記全ての削減案が施行される平成32年度(平成31年8月1日～平成32年7月31日)以降の削減額合計は13,030,000円となる。さらに、平成29年度会費納入率0.85で計算しているが、平成27～29年度納入率は90%である。したがって、会員数4,273人×10,000円×0.85=36,320,500円より2,136,500円(38,457,000-36,320,500)の増収が見込まれる。その結果、平成32年度(平成31年8月1日～平成32年7

月31日)は財政的に15,166,500円(=13,030,000円+2,136,500円)余裕ができる計算となる、との報告がなされた。

＜能勢理事からの質問＞

只今の理事長からの予算削減提案は、すべて学会の事業縮小案ばかりで、「体力医学会を盛り上げる」ような将来展望が見えてこない。すなわち、予算縮小によって、学会サービスが低下すると、学会員の減少が加速する危険性があることを、議論されたか。学会は、会員に「夢」を提供することもサービスの一つで、実際、学会HP上の理事長挨拶文に述べられている内容は主に「体力医学会の歴史」であり、「学会の理念」などは述べられていない、との指摘があった。

これに対して、理事長より、次のような回答があった。

＜鈴木理事長の回答＞

能勢先生は理事会に時々しか出席されず、出席された時は理想的な事ばかりと言われる。学会を預かる理事長としては財政基盤を安定させることを第一に考えている。平成26年度以降赤字が続く、別途積立預金を毎年10,000,000円近く取り崩して不足分を補充して来ており、昨年度～今年度に掛けて各種委員会了解の上、必須事業のみを精選し、予算削減を実行してきた。「学会の理念」が不明瞭であるとの指摘であるが、「理念」つまり根本的な考え方は体力医学会定款や理事長挨拶文に記述されている。

＜碓井常務理事のコメント＞

今までの体力医学会の事業は、会員数5,000人以上で、会費収入が多い時代に設立された事業である。4,200人程度に減少した現在、事業規模を縮小し、財政基盤を安定させた後に、新規事業導入を考えるのは当然の道筋である、とのコメントがあった。

＜坂本理事のコメント＞

プログラム委員会から、学会大会においてシンポジウムを計画しているので、その予算を計上して貰えないかと、鈴木理事長に依頼したが、「シンポジウムを立案した委員会がスポンサー等を探して行ってください」と言われた。学会補助金を300万円から200万円に削減するらしいが、削減せず、シンポジウム等のようにして頂きたい旨、コメントされた。

＜鈴木理事長の回答＞

学会大会開催事務局より、シンポジウムの立案・企画を依頼された場合の費用は大会事務局が負担し、学会本部の各種委員会が立案・企画した場合のシンポジウム等の費用はその委員会が準備するのが従来からの慣習である。そうでないと、複数の委員会からシンポジウム企画に伴う予算請求があった場合、個々に対応していたのでは財政的困窮に陥ってしまうからである。日本体力医学会にとって必須のシンポジウムである場合には、理事会に諮って、予算計上の承認を得なければならぬ旨、回答された。

8. 平成30年度会計報告(予算)に関する件について(勝村財務委員長)

資料に基づき、予算について説明がなされた。平成30年度予算見直しを受けて、9月の理事会時に改めて予算を提出する事とした。

鈴木理事長より提案された資料⑦の提案事項1)～5)まで理事会で承認されたので、“別途積立預金”を取り崩す必要がなくなり、これに基づいて“平成30年度予算案”を組み直し、9月15日の理事会に提出することになった。

9. 評議員推薦に関する件（鈴木理事長）

資料に基づき、評議員選考委員会において申請者28名に対しての審査を行い、候補者全員が評議員選考条件を満たした旨の報告があり、2017年度評議員候補者として28名（内、女性3名）を評議員に推薦することが承認された。

10. 日本体力医学会健康科学アドバイザー®継続申請者について（碓井称号委員長）

日本体力医学会健康科学アドバイザー®継続申請者11名の氏名リストが掲示され、承認された（内、終身称号者は5名）。

11. 中富健康科学振興賞の推薦者について（武政総務委員長）

武政総務委員長より公益財団法人中富健康科学振興財団より中富健康科学振興賞の推薦依頼が届いた旨、報告があり、その場で資料（番号無）が配布された。中富健康科学振興賞「候補者推薦に関する申し合わせ事項」を鑑み、理事12期、その他各種委員会委員長および第68回日本体力医学会大会長歴任など体力医学会への貢献度が抜群であることに基づき、慈恵会医科大学理事長栗原敏理事を推薦したい旨、提案され、満場一致で承認された。

12. 第28回スポーツ医学研修会修了試験結果について（碓井称号委員長）

研修会を受講した参加者の内10名が8月6日に修了試験（試験問題50問）を受け、全員が合格した旨と試験の概要について報告がなされ、承認された。

13. その他（鈴木理事長）

鈴木理事長より、次の3点が提案された。

- 1) 現在の各種委員会委員長は次期各種委員会委員長への“申し送り事項”を事務局に提出して頂きたい旨、依頼された。
- 2) スポーツ医学研修会の見直し：スポーツ医学研修会は今年で第28回を終了した。年々参加者が減少して来ている。研修会内容も初期の研修会開催目的から少々偏移してしまっている。一方、“日本体力医学会健康科学アドバイザー”と概ね同じ時期に、同じ主旨で設立された“健康運動指導士”や“健康運動実践指導者”は現在2万人程度養成されている。しかし、健康運動指導士講習会では、“運動処方”に必須の“最大酸素摂取量”の実測または“最大酸素摂取量推定簡便法”などの実習は行われていない。日本人の健康・体力維持増進に直接関わる運動指導者が、運動処方において最も重要な要素である“運動強度”の最も信頼が於ける指標“最大酸素摂取量”の実測または“最大酸素摂取量推定簡便法”などを

経験していないということは、“質の高い運動指導者”養成という点では望ましくない。体力医学会スポーツ医学研修会実習項目の中に、“最大酸素摂取量”の実測または“最大酸素摂取量推定簡便法”などの実習が組み込まれている。そこで、日本体力医学会健康科学アドバイザー取得者が健康運動指導士養成講習会を受講する場合、取得単位の削減や資格更新時の実習として体力医学会スポーツ医学研修会の受講を進めて頂きたい旨、提案された。その他に、臨床系学会に、スポーツ医学研修会案内などを紹介し、運動指導の実践において重要な運動処方、メディカルチェックなどを通して運動指導者養成に貢献できるよう、新たな体制で臨みたい旨、強調された。

- 3) 現在、各種委員会が16程ある。この中には、有名無実の委員会もあるので、次期新体制では整理・統合をはかりたい旨、提案された。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

- 1) 編集委員会（田中委員長、後藤副委員長）

資料に基づき、以下の報告がなされた。

- (1) 平成29年に編集委員会が行った事業活動について報告された。
- (2) JPFISMを国際オープンアクセスジャーナルとして発展させ、PubMed収録を目指すために、JPFISM誌としての独自のwebsiteを作成するため、J-STAGEセミナー「オープンアクセスジャーナルに求められることとは」に参加した。オープンアクセス化に向けた対応として、以下の項目について変更していく事が報告された。

- ・BOAI statementあるいはそれに準拠したオープンアクセスstatement
- ・編集委員会の英語名の名簿
- ・Licensingや著作権情報

Licensingや著作権情報に関しては、「再利用に関する権利」の表示になり、いわゆる「CCライセンス（creative commons licenses:基本6タイプ）」を採用し、最も制限的なCC BY-NC-ND（表示、非営利、改変禁止）の採用を検討している。

上記のCCライセンスでは学術利用は許諾なしにできるという表示になっており、現在の二次利用の規定では学術利用であっても使用許諾を求めているので、両者の規定が矛盾してしまい、現状の使用許諾を維持したままではCCライセンスを用いることが困難となる。そこで、二次利用の際の「学術利用」については、原則として「許諾の必要なし、かつ無料で使用可」へと変更する事が報告された。

- 2) 学術委員会（竹森委員長）

第28回日本体力医学会スポーツ医学研修会の開催結果について報告された。

- 3) 渉外委員会（永富委員長）

資料に基づき、以下の報告がなされた。

- (1) ECSS-JSPFISM交流シンポジウムについて
ECSS-JSPFISM交流シンポジウム（ECSS 2016 Metropolitan Ruhr）について報告された。

座長：永富良一（東北大学）

“Challenging Physical Inactivity in Childhood and Adolescence”

シンポジスト：紙上敬太（早稲田大学）、
鈴木宏哉（順天堂大学）

(2) 第2回国際学術交流奨励賞について

今年度は16名の応募があり、渉外委員会の審査の結果、8名に国際学術交流奨励賞を授与することが報告された。

(3) 国内関連学術団体との交流・連携について

JPFISMに「血管病予防に関する包括的管理チャート」を掲載したことが報告された。

4) 倫理委員会（成田委員長）

資料に基づき、『日本体力医学会 研究倫理審査』のホームページ掲載がされ、研究倫理審査の応募を開始したことが報告された。

5) 将来構想検討委員会（能勢委員長）

資料に基づき、最近の「学会員数減少」を受け、その対策をいかに講じるべきか、を中心に将来構想検討委員会委員を対象にアンケート調査を行い、その結果が報告された。

(1) 学会の顔であるホームページの改訂

(2) オリンピックに関連したシンポジウムの開催

(3) 実践者向け現場に役立つ体力医学に関する講習

(4) 各種ガイドラインの作成

(5) 学会誌について

(6) 学会運営について

6) 広報委員会（甲斐委員長）

将来構想検討委員会からのアンケート結果を踏まえ、ホームページの現状を維持しつつも、引き続き委員会の中でホームページ改定案を議論していくことが報告された。

2. 理事選挙の結果及び役員選挙の進捗状況

(須田選挙管理委員長)

資料に基づき、役員選挙結果について理事長に鈴木政登現理事長、副理事長に西平賀昭現副理事長と永富良一現副理事長、常務理事に碓井外幸現常務理事が当選されたことが報告された。また、副理事長については第1副理事長に投票数の多かった西平賀昭現副理事長、第2副理事長に永富良一現副理事長が選出されたことを新理事会で提案する予定である、ことが報告された。

3. 第72回（愛媛）大会の進捗状況

(尾形第72回大会長代理)

配布資料に基づき、大会の特別講演等準備状況について報告された。

会場：愛媛大学城北キャンパス、
松山大学文京キャンパス

会期：2017年9月16日(土)～18日(月)

テーマ：愛顔つなぐ体力医学

4. 第73回（福井）大会の進捗状況

(山次第73回大会長代理)

配布資料に基づき、大会会場の変更等準備状況について報告された。

会場：AOSSA, ハピリン

会期：2018年9月7日(金)～9日(日)

テーマ：しあわせ元気なふくいでつむぐ体力医学
～QOL維持・向上の運動効果～

5. 第74回（茨城）大会の進捗状況（田中第74回大会長）

大会の準備状況等について報告された。

会場：つくば国際会議場

会期：2019年9月19日(木)～21日(土)

6. その他（鈴木理事長）

1) 永富渉外委員長に代わり鈴木理事長より、第18回日本抗加齢医学会総会「シンポジウム⑤骨格筋を中心とした臓器・組織の連関について」の共催依頼があったことが紹介され、審議の結果、了承された。

2) 田中編集委員長より、「日本体力医学会学術刊行物『メディカルフィットネス－臨床医向けのエクササイズガイド－（仮題）』の企画（出版社、社会保険研究所から内諾）が編集委員会と学術刊行物小委員会との共同で進められているが、学術刊行物小委員会委員長は多忙のため進行していない。編集委員会では第10版ACSM運動処方指針の翻訳者に原稿依頼も済ませ、一段落したので、編集委員会主導で進めたいが、どうか」という提案があった。出席理事の中から異論はなく、鈴木理事長より「宜しくお願います。」と回答された。

追記：この件に関して、後日永富学術刊行物小委員会委員長より承諾が得られた。

第80回日本体力医学会中国・四国地方会のご案内

期 日：平成29年12月9日(土)、10日(日)

会 場：広島工業大学（広島市佐伯区三宅2-1-1）

○プログラム

・演題数により多少変更になる場合があります。詳細は第二報で連絡します。

1 日目：平成29年12月9日(土)

13：00～13：30 幹事会

12：50～13：20 受付

13：40～13：45 挨拶

13：50～16：50 研究発表（1）

17：00～18：00 特別講演「タイトル未定」

講師：大瀧慈先生（広島大学名誉教授）

19：00～21：00 情報交換会（会場：サンプラザ広島）

2 日目：平成29年12月10日(日)

8：45～9：00 受付

9：00～12：00 研究発表（2）

12：00～12：20 日本体力医学会中国・四国地方会
奨励賞受賞講演

12：20～12：50 総会

○学会参加、情報交換会参加の申し込み

学会および情報交換会の参加申し込みは11月22日(水)までにFaxまたはE-mailでお願いします(必着)。

Faxの場合は、別紙申し込み票をご利用頂き、E-mailの場合も同様の内容をお知らせください。

○学会参加費

会 員：1,000円

非 会 員：2,000円

学生・院生：無 料

○情報交換会

情報交換会費：5,000円（学生・院生：3,000円）

*会費の支払いは、学会当日受付にてお願いします。

会場：「サンプラザ広島」（広島市西区商工センター
3-1-1）学会会場から情報交換会会場までお車で15分程度です。

○演題申し込みおよび予稿集原稿

1. 演題の申し込みはFaxもしくはE-mailで11月22日(水)までお願いします(必着)。

まず、申し込みの際には、以下の4項目についてお知らせください。

1. 発表者、2. 所属、
3. 連絡先（Tel, Fax, E-mail）、4. 演題名

（Faxの場合は別紙申し込み票をご利用ください）

2. 予稿集の原稿を12月1日(金)までに郵送またはE-mail（ワード添付書類）でご提出ください(必着)。原稿はA4用紙2枚に上下左右の余白を2cm取り、タイトルは18ポイント、所属・氏名・本文は12ポイントで作成してください。発表者が複数の場合は、演者の前に○印を付けてください。添付されたWord書類はこちらで印刷し、郵送原稿はそのまま複写します。図表も添付可能ですが、こちらで若干の修正を加えさせて頂く場合がありますのでご了承ください。

○一般発表について

・発表時間は、発表10分、質疑応答4分の計14分とし

ます（演題数によって変更有り）。

・発表は、パソコンの画面映写とします。プロジェクターはこちらで準備します。

・事務局側で準備するパソコンのOSおよびアプリケーションは以下の通りです。OS：Windows 7、アプリケーション：Power Point 2010（Macintosh本体の用意はいたしません）

・ご自身のパソコンを持ち込まれて発表されても構いませんが、ケーブル接続等の作業につきましては発表者ご自身でお願いします。

・Macintoshはプロジェクターとの接続に変換ケーブルが必要です（変換ケーブルの種類は機種によって異なります）。ケーブルは発表者が必ずご持参ください。

○会場案内

広島工業大学 広島市佐伯区三宅2-1-1

ホームページ（<http://www.it-hiroshima.ac.jp/>）参照

*駐車スペースは十分ありますが、乗り合わせでのご来場にご協力をお願いいたします。

○情報交換会会場

サンプラザ広島 広島市西区商工センター 3-1-1

電話：082-278-5000

*地図は、以下のURLでご確認ください。

<http://www.hiroshima-sunplaza.or.jp/index.html>

*学会1日目終了後に情報交換会会場に移動される時間を考慮し、情報交換会開始時刻を設定しております。

○宿泊施設

学会会場周辺および情報交換会会場周辺には宿泊施設が限られております。情報交換会会場であるサンプラザ広島に宿泊していただくのが便利です。宿泊の手配は、各自でお願いします。なお、11月30日(木)まで宿泊施設を仮予約しております。電話で予約される際にまず日本体力医学会中国・四国地方会の参加者であることを伝えてください。割引料金のサービスを受けることができます。

○学会誌「体力科学」への投稿原稿

学会誌「体力科学」への掲載用原稿は、地方会事務局がとりまとめ、学会誌編集事務局へ送付します。下記の書式に従いE-mailにて12月22日(金)【必着】までに地方会事務局の方へお送りください。

掲載原稿送付先：jpsfsm@mw.kawasaki-m.ac.jp

（地方会事務局）

（提出原稿書式）

1) 原稿の1枚目から演題名、発表者名、所属名、本文の順にお書きください。

2) 900字以内になるよう作成してください（演題名、発表者名、所属名、本文を含む）。

3) 図表は認められません。

○問い合わせ等

〒731-5193 広島市佐伯区三宅2-1-1

広島工業大学環境学部地球環境学科 西村一樹 宛

TEL：082-921-9413（直通）

FAX：082-921-8993

E-mail：k.nishimuras7@it-hiroshima.ac.jp

日本女子体育大学附属基礎体力研究所 第28回公開研究フォーラム 「身体活動やスポーツを通して人を育てる」

日 時：2017年12月2日(土) 13:00～16:30
場 所：日本女子体育大学本館1階 E101教室
参加費：無 料
お問い合わせ先：

E-mail : kisotai@jwcpe.ac.jp
TEL : 03-3300-6172, 03-3300-6175
URL : <http://www.jwcpe.ac.jp/research/>

プログラム

●13:05～14:10 セッションⅠ <基調講演>

「健全な子どもの育成に役立つ運動・スポーツのあり方」
中村和彦先生（山梨大学・教授）

●14:10～14:30 <基礎体力研究所の成果>

ポスター発表 & コーヒーブレイク

●14:30～16:30 セッションⅡ

<学際的視座からの挑戦と実践>

◇14:30～15:10

「運動経験が子供の学力・認知機能に与える効果」
紙上敬太先生（早稲田大学・講師）

◇15:10～15:50

「スポーツがGrit（やり抜く力）を育てるか」
山北満哉先生（北里大学・講師）

◇15:50～16:30

「日本のトップレベルの跳躍種目の選手の育成強化
－現場の取組から－」

吉田孝久先生（日本女子体育大学）

●16:30 閉会

平成30年度 公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団学術研究募集

主 催：公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学
振興財団
THE DESCENTE AND ISHIMOTO MEMORIAL
FOUNDATION FOR THE PROMOTION OF
SPORTS SCIENCE

応募資格：

①体育学、健康科学、人間工学、被服科学、運動施設工学等健康の増進と体力の向上に関わる学術、およびその他スポーツ振興に寄与する学術研究に関する講座を持った大学、およびこれに準ずる研究機関に所属する個人またはグループ。

②高校生から幼児までの教育機関に奉職しており、①に前述した分野で研究または調査活動を積極的に行っている個人またはグループ。

この場合、運動生理学的研究でなくとも、あくまで教育現場に於ける身近なテーマで、すぐにも役立つ研究テーマを求めている。

但し、研究報告等に不慣れな人は、報告書作成に習熟した人を共同研究者に加えて申請のこと。

学術研究テーマ：自由課題学術研究

本財団の主旨に添ったものであり、申請者がこれまで行って来た研究を助成することによって、調査・研究の発展・充実が期待されるものであること。

応募方法：

本年度の公募締切日は平成29年11月8日です。

応募者は、所定の申請用紙に研究テーマ、目的、内容および期待される成果等を簡潔に書き、平成29年11月8日（当日消印有効）までに書面にて下記宛提出すること。

（申請書は所定用紙または当財団ホームページより、B4サイズにてダウンロードしたものとする。但し所定用紙をコピーし使用する場合は、平成30年度申請書をコピーのこと、自作による作表および前回までの用紙は使用しないこと）

応募書類 送付先・資料の請求および問い合わせ：

〒543-8921 大阪市天王寺区堂ヶ芝1-11-3

(株)デサントR&Dセンター内

公益財団法人 石本記念デサントスポーツ
科学振興財団 編集局

TEL：06-6774-0252 FAX：06-6774-0930

ホームページアドレス：

<http://www.descente.co.jp/ishimoto/>

E mail : zaidan@descente.co.jp

公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団 財団設立30周年記念・平成30年度研究助成の公募について

当財団は来年3月30日に設立30周年を迎えます。財団設立30周年を記念して、平成30年度分の研究助成金を増額することといたします。多くの研究者の皆様の応募をお待ちしております。

1. 助成の対象

<一般公募研究>

単年度（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

- ・医学分野：
塩類の生理作用、健康に及ぼす影響に関する研究
- 食品科学分野：
食品の加工・調理・保存及び食品栄養における塩類の役割に関する研究

<プロジェクト研究>

3年間（平成30年4月1日～平成33年3月31日）

- ・医学分野：
研究テーマを「食塩バランスと生体機能」とし、下記のサブテーマ毎に募集する。
（サブテーマ1）新しい食塩バランスの調節機構
（サブテーマ2）食塩バランスが臓器機能に与える影響

2. 募集件数および研究助成金額

<一般公募研究>

- ・医学分野：15件程度
- 食品科学分野：10件程度

- ・研究助成金額：1件当たり150万円以下
（昨年度120万円以下）

<プロジェクト研究>

- ・医学分野：4～6件
- ・初年度助成金額：1件当たり100～200万円

3. 応募資格：

日本国内の大学、公的研究機関等で研究に携わる人（学生・研究生等を除きます）。若手研究者の積極的な応募を期待。

4. 応募方法：

財団のウェブサイトから平成30年度研究助成応募要領（Microsoft Word）をダウンロードし、応募要領に基づいて所定の書式に記入のうえ、書面により提出。

5. 応募期間：

平成29年11月1日～平成29年12月10日まで
（締切日財団必着）

6. 提出先：

公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団
〒106-0032 東京都港区六本木7-15-14 塩業ビル3階
電話：03-3497-5711
URL：<http://www.saltscience.or.jp>

7. 選考結果の通知：

財団の研究運営審議会による審査・選考等を経て、3月に応募者へ書面で通知。

編 集 後 記

第72回日本体力医学会大会が開かれている愛媛県松山市でこの編集後記を書いています。まさに台風18号がやってこようとしています。この影響で早めに帰った方や来るのを断念した方が多くいらっしゃったようです。大会をはじめ、海産物や温泉も楽しみにしていた方には残念でした。大会は素晴らしいスタッフで運営されておりました。

さて体力科学第66巻第5号(2017)をお届けしました。総説1編、原著5編が収められています。競技志向だけでなく健康志向の検討も、ヒトだけでなくラットを対象にした検討もなされています。幅広い内容を一気に読めるという特長が体力科学にあります。

今号の6編はいずれも素晴らしいものですが、研究題目が編集事務局から送られてきたとき、まず目にとまったのは総説の「競技者の健康を生涯守るために」という副題でした。競技者も一人の人間です。しかし多くの論文では競技パフォーマンスを最大化することに主眼が置かれ、その方の生涯についての視点はこれまであまりなかったように思います。重要だけど誰も手を付けていなかった課題に着手した点は素晴らしいと思います。また、「あぐら座位(胡座)時の脊椎矢状面アライメントの変化」にも目がとまりました。私は大学でスポーツ実技を教えています。あぐらをかいて座る学生の多くが腰に疲労を覚えており、本稿にその原因・メカニズムが示されているのではないかと思ったためです。あぐらという毎日

の生活動作の中で発見した問題を検討しようとしていると思われます。これらのように、新しい視点をもたらす研究や、実生活で問題になっている点を解決しようとする研究は非常に重要です。そのような研究が今後も投稿されることを期待しています。

ところで、投稿された原稿は査読者に回されます。査読者は時間と労力をかけてその原稿の採否を検討してくださっています。査読を引き受けてくださっている先生がたには、改めて厚く御礼申し上げます。査読者は忙しい時間をやりくりして査読してくださっていますので、投稿される方におかれましては、このような事情を十分に踏まえて投稿してください。たとえば規定から外れたフォーマットや、誤字や脱字などがあると、その点を指摘する時間を費やすことになります。また、そのような部分への配慮が無いと言うことは研究データの扱い方についても配慮がないのではないかと印象が悪くなります。

最後にもう一言。学生をゼミなどの授業で指導していると、本誌のようなオープンアクセスの論文を教材に持ってくることが多いです。すなわち本誌に掲載されると多くの学生にも読まれることになります。先生がたの知見を若い人たちにも広めることになりますので、是非投稿してください。

重松 良祐

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.66, No.5

体 力 科 学 第 66 巻 第 5 号

平成 29 年 9 月 25 日 印 刷

平成 29 年 10 月 1 日 発 行

編集兼発行者
発 行 所

田 中 喜 代 次
一般社団法人日本体力医学会
〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13
ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内
TEL : 03-5981-6015 FAX : 03-5981-6012
E-mail : jspfsm@asas-mail.jp

編 集 事 務 局

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1
鶴岡印刷株式会社内
TEL : 0235-22-3120 FAX : 0235-22-3120
E-mail : hj-tairyoku@turuin.co.jp

印 刷 所

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1
鶴岡印刷株式会社